

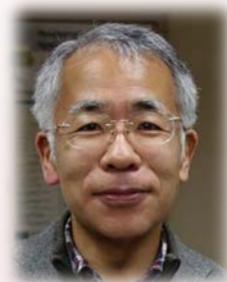
第329回 大阪大学神経科学懇話会

日時：平成27年6月5日（金） 18:00 – 19:00

場所：最先端医療イノベーションセンター 1階マルチメディアホール

演者：和田 圭司 先生

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
トランスレーショナル・メディカルセンター長



演題：脳の健康と身体の健康

要旨：脳科学の時代と言われて四半世紀が過ぎようとしています。シナプス生物学や脳機能イメージングは当初予想を上回る成果をあげました。しかし、脳の全容を理解するにはまだまだ道のりは遠いという状況にあります。同様に、分子生物学、分子遺伝学の勃興は単一遺伝子性神経疾患においてその原因遺伝子の同定という輝かしい成果を生みました。しかし、発症機序についてはいまだ不明のことも多く、精神疾患など多因子性疾患においては従来の発想では解決できないことが累々です。創薬開発戦略は大学においてもAROなどの形態で事業として定着しつつあります。しかし、こころという面を併せ持って考慮しないといけない精神・神経系の病態治療では、薬に頼るだけでない医療の必要性も真剣に議論されています。また、脳・臓器間ネットワークという言葉に代表されるように、脳の研究は脳の中だけを研究対象としていてはいけない状況を生み出しています。すなわち、脳の研究は脳科学と言う用語がいずれ死語となり何らかの総合科学に発展するだろうという予感にもとづいてそのベクトルを大きく変えつつあります。今回のセミナーでは、研究データの紹介に留まらず、聴衆の皆様方と21世紀後半に向けて脳研究の理念や方向性について、哲学なども取り入れながら議論をしていきたいと思えます。

※本講演は、医科学修士課程系別セミナーとして単位が認定されます

連絡先：大阪大学 医学系研究科 解剖学講座(神経機能形態学) 佐藤 真(内線3221)